若宮八幡社 社報

金鷹山（きんたかやま）

平成25年（2013）10月1日創刊
通巻第1号

発行所　若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者　宮司　紀田兼昭
電　話　0978（62）3237

若宮八幡社 金鷹山 検索
神社公式ホームページ立ち上げました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

社報『金鷹山』創刊第一号

若宮八幡社の歴史伝統を紐解く社報を目指します

この度、宮司御鎮座「若宮八幡社」の社報を発刊する運びとなりました。名前は神社が鎮座される場所に因み『金鷹山』と名付けました。昔、杵築藩の殿様が夢枕で金色に輝く鷹が若宮八幡社の御山に飛んで行ったのを御覧になったのが、その名の由来と言われております。当面の間は、年に一度秋に刊行致します。どうぞ御愛顧賜りますれば幸甚に存じます。あまり難しい内容にすると、皆さんに読んで戴けなくなる恐れもありますので、なるべく肩肘を張らずに読んで戴けるような内容に致しました。毎日の新聞やニュースでは気分の重くなるような報道が多くなってきたような昨今ですが、杵築の宮司からは健やかな広報が発信できればなあ…との一念で刊行した次第であります。それでは社報『金鷹山』第一号のはじまり、はじまり。

若宮八幡社屋根龍瓦

平成25年度　若宮八幡社神職及び責任役員総代一覧

神社名	祭神	鎮座地	役職	氏名	選出地区
若宮八幡社	大鷦鷯命 菟道稚郎子 宇礼姫 久礼姫	杵築市大字宮司336	宮司	紀田　兼昭	
			禰宜	紀田　兼宣	
			責任役員	森　昭	北浜区 [塩田、錦城、北浜、中央、城山、谷町、魚町、据場]
			責任役員	中山　休	船部区 [船部、大片平]
			総代	門　熙	天満区 [北台、南台東、南台西、西上、仲町、天満、弓町]
			総代	本多　泰久	宗近区 [錦江、杉山、東下司、西下司、下原、宗近、中平]
			総代	衛藤　清孝	宮司区 [馬場尾、守末、宮司、中ノ原、菅尾]
			総代	笠置　壽	古野区 [西新町、札ノ辻、北祇園、南祇園、煙硝倉、古野]
			総代	河本　理宏	東溝井区 [中津屋、東溝井]
			総代	篠田　直人	西溝井区 [西溝井、二ノ坂]
			総代	三浦　源治	岩谷区 [鴨川、岩谷]

兼務神社一覧［順不同］

神社名	祭神	鎮座地
浜田社	大鷦鷯命 菟道稚郎子 宇礼姫、久礼姫	杵築市大字南杵築571
若八幡本社	大鷦鷯命 菟道稚郎子 宇礼姫、久礼姫	杵築市大字中1223
若宮八幡社	大鷦鷯命 菟道稚郎子	杵築市大字船部765
若宮八幡社	大鷦鷯命	杵築市大字大片平768
天満社	菅原大神他1柱	杵築市大字大内4460
貴布禰社	闇龗神	杵築市大字南杵築391
神明社	天照大御神	杵築市大字杵築324
八幡社	応神天皇	杵築市大字鴨川148
八坂神社	菅原大神 素盞嗚尊	杵築市大字鴨川1405

巻頭言　第三十三代宮司紀田兼昭「デジログ」のすすめ

▲去る六月二十七日（木）の産経新聞の記事に興味を持たされる内容が記憶に新しい。▲それは岐阜県可児市の任意団体「日本語を大切にする会」が起こした裁判のことである。▲訴状によると、NHKが放送番組や番組名で外国語を多用したために精神的苦痛を被った、とのことで慰謝料まで求めているのであった。▲最初この記事を目にした時は、また訳のわからん輩が居るもんだなあ…程度にしか考えていなかったのだが、よくよく記事内容を見ると自然に吸い込まれた。▲リスク（危険性）、システム（組織・制度）、ケア（介護）、ディープ（深い・濃い）、コンプライアンス（法令遵守）等々が列記されているのを垣間見るに、成る程変にカタカナで表記されるより、日本語で書いてもらった方が遙かに心に沁みると感じるのは恐らく編集子だけではなかろう。▲今回、社報を刊行するに併行して公式ホームページも立ち上げたのだが、IT業者に先ず始めに言われたのが、「コンテンツ」を決めて下さい、との打ち合わせに、何ですかそれは？と考えたのが懐かしく思い起こされる。▲しかしながら、日本の中でアナログの代表格であろう神社界にとっても通れない道筋だと思われるが、そこは神仏を上手く崇拝している日本人のことだから、あまり堅苦しく考える必要も無いのかなあ、と訳もなく納得してしまうのだが、いずれにしてもデジタルとアナログを上手に共有する「デジログ」という感性がこれからの斯界には求められているのだと更めて認識させて戴いた記事であった。編集子も立派なコンシェルジュ（門番）となるよう努力してまいる所存であります。

若宮八幡社御由緒

御奉遷壱千参拾年祭の予告について

若宮八幡社は、寛和元年（九八五）人皇第六十五代花山天皇の御世に京都石清水八幡宮の神官であった初代紀兼貞朝臣が勅宣を奉じて御尊像（大鷦鷯命・菟道稚郎子・宇礼姫・久礼姫）四柱を守護し奉り、この豊後国速見郡八坂郷に下向しました。

元来、この八坂郷は宇佐神宮の神領でしたが、その後　時代の変遷に伴い京都石清水八幡宮の神領となりました。しかし京都から遠方のため御貢物の輸送も儘ならず近辺治安の意味からも前記のように御奉遷になられたのです。

初代紀兼貞朝臣は瀬戸内海を西行し八坂川のほとりに辿り着きましたが、川に着岸することが出来ず難儀をして困っていた処、八人の人々がこれを御助け申し上げました。この人達の子孫は現在も「浜八人」と称して例大祭の折には神輿の担ぐ要の御奉仕を戴いております。浜八人のお蔭で御尊像は無事に柏島に鎮座なされ、これが現在の下司に鎮座される浜田社であります。

その後、天喜五年（一〇五七）生地村岳に、承安三年（一一七三）中村（現在の若八幡本社）に、そして嘉暦元年（一三二六）には現在の社地（金鷹山）に至るまでの三度御遷座の上、御鎮座になり現在に至っております。

明治六年には郷社、大正十年には県社に列格になり、累代杵築藩主の氏神として尊崇を賜ることは勿論のこと、地方郷民の宗祀として愈々御神威のいやちこに亘らせられることを拝し奉るのであります。

境内末社として「和漢将軍社」が祀られております。祭神は木付親重公（一二二五～一二八五）で、杵築藩地方開発の祖と仰がれる方で、学問の神様として広く崇敬を集めています。親重公は幼少の砌、優れた学問の才能を以て御嵯峨天皇の第一皇子宗尊親王から『和漢将軍と称すべし』と褒められたのが、その名の由来であります。

前記するように、若宮八幡社がはじめて八坂郷に鎮座された寛和元年（九八五）から平成二十七年（二〇一五）で丁度壱千三〇年を迎える嘉年を間もなく迎えることと相成りました。過去の記念事業を見ると九八〇年祭の折には神輿が浜田社まで渡御され、壱千年祭には境内建物等の修造工事が為されております。時節柄、大きな事業は計画しておりませんが、時代の趨勢に適う形で大神様に御奉告が出来ればと考えております。

現在、総代会及び評議員会で審議中ですが、具体的には来たる平成二十六年度から大綱を氏子の皆様方にお知らせして、翌平成二十七年度にかけて記念事業を遂行致し度茲に御報告申し上げる次第であります。

社報『金鷹山』が今回、上梓を見たのも大神様の御神縁と肝に銘じ、御報告方々御援助御教導の御挨拶まで申し上げます。

第三十三代宮司　紀田兼昭

若宮八幡社　社頭

九百八拾年式年大祭　元宮（浜田社）神幸図

浜田社

若宮八幡社祭事報告

春季大祭（御田植祭）と仲秋祭（楽の市）斎行される

若宮八幡社の恒例祭典のうち二つの神事について御報告申し上げます。

《春季大祭・御田植祭》

四月六日に春季大祭が斎行されました。午前十一時に平成二十五年度新たに組織された若宮八幡社責任役員と総代が参列し、まず大神様に人員が入れ替わりましたことを御奉告。そして秋の実り多き事を祈念し、かわいい巫女さんの御神楽が奉納され、まずは午前中の神事が無事に終了致しました。

続いて午後二時から御田植祭が斎行されました。中津屋校区の皆様方の御協力により毎年執り行われておりますが、本年は生憎の雨天のため拝殿の中での御田植え神事となりました。神事に先立つ神前の結婚式では立派な男の子を授かり（昨年は男女の双子）愈々御田植え神事です。こちらもかわいい早乙女さんたちによる所作が奉納され、無事に春季大祭と御田植祭も終了致しました。

《仲秋祭・楽の市》

九月十五日に仲秋祭が斎行されました。午前十一時に若宮八幡社責任役員と総代が参列し、春季大祭と同様に巫女さんの御神楽が奉納されました。

この九月十五日は若宮八幡社の親神さまでいらっしゃる京都石清水八幡宮の御例祭日であります。午後二時からは楽の市も執り行われました。昔は八幡別当の護保寺に於いて放生会も行われ、藩候の代参もあり界隈から笠鉾も奉仕され、俗に農具市と称し農耕に要する農器具類が沢山出荷され、人出も多く賑わっていました。また楽打ちの奉納もあったので楽の市と称されるようになりました。

楽の市も御田植祭と同じく中津屋校区の皆様方により毎年執り行われておりますが、その主旨としては、古来、戦場に赴く際の戦勝祈願・凱旋の祝賀・天下泰平・国家安寧・風虫害除・五穀豊穣などを祈ることであります。舞うときの唱え言葉に朝鮮語らしい言葉があるので、神功皇后が三韓を御親征の折り、朝鮮語を以て号令しその符号を以て楽譜としたとする朝鮮半島から来た文化ではないか、更には松平氏が杵築に封せられ下向の際、海上が暴風雨のため船が沈没する惧れがあったので、若宮八幡社に祈願を行い難を逃れたことに感謝し、大神様の御心を御慰め申し上げたことなどに由来するとも伝わっており、その起源は諸説あります。

今回、新たに刊行する社報に併せて若宮八幡社公式ホームページも開設致しますので、由緒や神事の説明など詳細はそちらも御覧戴けると幸甚に存じます。

以上、恒例祭典のうち二つを取り上げましたが、中津屋校区をはじめ氏子崇敬者の皆様方の御協力により、毎年お祭りが斎行されますこと感謝申し上げる次第であります。今後とも物心共々の御支援御協力を御願い申し上げ、神事斎行の御報告を申し上げます。

昨年の御田植祭の様子

仲秋祭　楽の市

これからの祭典について御紹介

新嘗祭と例大祭まもなく御斎行

これからの祭典の御報告を申し上げます。

《新嘗祭・勤労感謝祭》

十一月二十三日（土）に斎行

前記する四月六日において、大神様に秋の実り多き事を祈念致しましたが、神様の御蔭にたくさんの収穫物が横山の如くに神前に奉献され、感謝を捧げる神事です。

遥か皇居内の神嘉殿においても新嘗祭は斎行され、天皇陛下御自ら御祭主を御勤めになられます。特に陛下の御世が新しく変わりて最初の新嘗祭を『大嘗祭』と称し、平成の御世には、平成二年十一月に浄暗のなか斎行されました。

若宮八幡社では古来、斗初穂の奉献を承っております。「斗初穂」とはその名の通り一斗のお米のことですが、毎年一升米ずつを大神様に奉献し、十年続けて合計十升（一斗）になった方の芳名を参道両脇の芳名石板に刻み、これを顕彰するものです。現在は、お米を現金に置き変え米一升を三千円、十年間で三万円としております。毎年積み立てる方もいれば、一年で一括納められる方もいらっしゃいます。申込みは御本人でも勿論、御子様や御友達の名で奉献戴いても結構です。

【斗初穂担当総代】

本多泰久　宗近区　六六・一一六一

河本理宏　東溝井区　六二・一九八二

《例大祭》

十二月二日から五日まで斎行

若宮八幡社で斎行される神事の中で最重儀といわれる年に一度の例大祭です。

古来、この例大祭に合わせて日本三大の『牛馬市』も行われておりましたが、農機具の発達に伴い、牛馬の需要もなくなり現在、牛馬市は行われて居りませんが、貴重な文化遺産は永い時間をかけて復興させていきたいものです。

十二月二日（月）前夜祭

終日、関係者にて祭典の準備を行い例大祭の無事を祈願する神事です。（夕刻に責任役員総代のみ参列）

十二月三日（火）御下り神事

大神様を神輿にお遷しし、浜八人による渡御に始まります。頓宮まで凡そ二百名の奉仕者による供奉。夕刻、神輿は頓宮に着御され、総代二名が参籠致します。

十二月四日（水）於　頓宮

午前　長寿交通安全祈願祭斎行

杵築市交通安全協会主催によるお年寄りの健康と交通安全を祈る祭典を執り行います。

午後　みさき神楽奉納（十三時）

俣水神楽社中の奉納による家内安全と健康長寿などを御祈り下さい。

一件　一五〇〇円（当日申込可能）

十二月五日（木）御上り神事

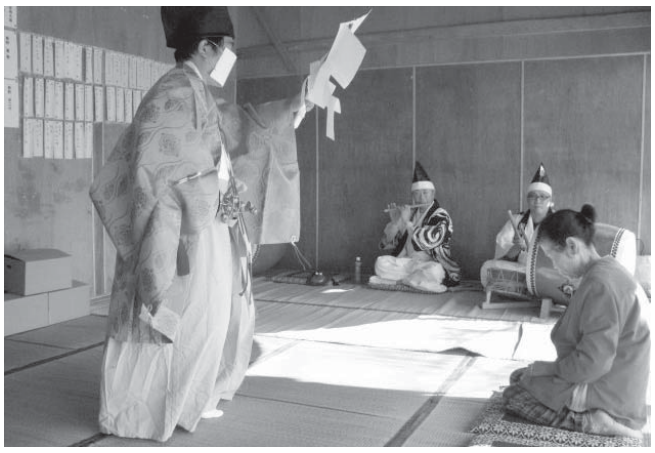
頓宮から浜八人により神輿を若宮八幡社まで渡御します。夕刻、大神様は本座に御還りになられ、例大祭は無事に終了となります。

例大祭期間中は境内に各種露天商も多数出店、その他ゲートボール・グランドゴルフなどの催し行事も計画されております。

【お問合せ先　若宮八幡社　紀田】

（六二）三三三七　まで

斗初穂芳名板



例大祭　俣水社中奉納　みさき神楽

全国神社の総氏神　お伊勢さま

遷宮祭斎行される“神宮大麻を祀りましょう”

全国八万社あると言われる神社の総氏神さまと称される伊勢神宮。内宮と外宮が夙に著名ですが、別宮・所管社など百二五の御社を総称して伊勢神宮（神宮）と申し上げます。

この伊勢神宮でこの秋二〇年に一度の重儀「遷御」が斎行されます。遷御（遷宮祭・神様のお引越し）は、その歴史を紐解きますと、第四〇代天武天皇の御世に定められ、奥様であります持統天皇の御世に第一回の遷宮祭が斎行されてより今回が第六十二回の重儀となります。途中、中世の応仁の乱と大東亜戦争の二回ほど延期を余儀なくされましたが、『式年』の名が示すように二〇年に一度、連綿と引き継がれて今日に至っております。

伊勢神宮で調製される神璽を「神宮大麻」と言い、毎年新たに調製の上、全国の神社で頒布（おわかち）しており、大分県神社庁速見支部でも頒布始奉告祭を斎行した後、御配り致します。お伊勢さまのお札を神棚にお祀りしてどうぞ清々しき平成二十六年の正月を御迎え下さい。

（お祀りする時には、大麻を包む和紙をはがして神棚にお祀り下さい）

内宮の正面階段（写真御提供 神宮司庁）

伊勢神宮（写真御提供 神宮司庁）

◆祖霊開運講の忠実なる御活動報告◆

若宮八幡社開運講は、神社神道宗旨家庭の方で構成される祖霊講です。敬神生活の綱領（後記）に基づき、若宮八幡社の神慮を畏み、祖訓を継ぎ祭祀に勤しむことを目的とした講組織であります。

若宮八幡社境内の美しい自然環境と文化遺産の維持管理や講員相互の親睦と助け合いを柱とした和気藹藹とした雰囲気の中、年間の主な活動としては、

・春秋彼岸の中日に祖霊祭を斎行

・年に一度、総会を開催

・企画旅行を実施する

などを行っております。

現在、講員は約五十名の方たちで構成され、区域としては主として「杵築」、「北杵築」、「東」、「大内」などで編成する区域が含まれており、会長は若宮八幡社の総代でもある笠置　壽氏が兼ねて御奉仕をされていらっしゃいます。

講員同志の交流も仲が良く、昨年は企画旅行を熊本県方面に日帰りで行って参りました。本年も秋には日帰り企画旅行を実施するべく、現在計画中であります。

《敬神生活の綱領》

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し明き清き誠を以て祭祀に勤しむこと

一、世の為人の為に奉仕し神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心を戴きて睦び和らぎ国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

敬神生活の綱領→神社界に携わる神職及び総代の奉仕に際する精神的なる教え（綱領）のことです

開運祖霊講が守る社叢

平成大嘗祭主基地方風俗舞

玖珠町嵐山瀧神社にて奉納される

今上陛下の大嘗祭は平成二年十一月二十二日に斎行されました。

平成度大嘗祭の御神饌米には大分県が主基国に卜定され、大分県玖珠町の田圃が斎田となりました。大嘗宮主基田供饌の儀に主基田米と大分県に因む風俗歌が供進されましたことを誉れとして、宮内庁の格別の御計らいにより大分県神社庁挙げてこの風俗舞保存に力を注いでおり、去る六月十四日には恒例の豊穣祈願祭が玖珠町の嵐山瀧神社にて平成二年の御田植祭を卜して斎行され、主基地方風俗舞が古式床しく奉納されました。

嵐山瀧神社豊穣祈願祭に於ける平成大嘗祭主基地方風俗舞

《平成大嘗祭主基地方風俗舞》

参音声　「くじゅう高原」

霧やがて　晴るればくじゅう　高原は
つばらかにして　牛くさを食む

くじゅう高原の『稲取歌』を参考にしています

破　「高崎山」

高崎山　みどりを清み　常盤木の
さながら海に　あそべるたのしさ

賀来の『田の草取歌』、振付は『鶴崎おどり』の猿丸太夫の手振りを参考にしています

急　「姫　島」

ひたごころ　秘めこし姫島　ひとつにし
結ばれゆきつ　千万までも

姫島村の子守唄と盆踊りの曲を、振付は『狐踊り』を参考にしています

退出音声　「岡城址」

見のたかき　岡の城あと　神さびて
霜さえわたる　千代の松が枝

竹田市神原の祝い唄『ヨイヤナ』を参考にしています

奉納後に全員で集合写真

筑後国一の宮　高良大社　紹介

九州の親神さまにお参りしませんか？

若宮八幡社禰宜　紀田兼宣が現在奉職修行しております福岡県久留米市御井町御鎮座「高良大社」を御紹介致します。

高良大社は筑後国一の宮、国幣大社として筑後地区はもとより九州全域の崇敬を戴く式内明神大社であります。御祭神は高良玉垂命、八幡大神、住吉大神を奉斎し高良山標高三二〇㍍の山頂近くに鎮座され、その歴史は千六百有余年と伝えられております。

古くは高良山内に二十六の寺、三六〇の宿坊などもありましたが、明治の御世に神仏分離令のもと、今はその面影を見る由もありません。境内には紀田家祖神であります武内宿禰を祀る印鑰神社も鎮座します。神社から眺める筑後平野は見事なものです。

アクセスは大分自動車道鳥栖ＪＣを南下、久留米ＩＣで降りて下さい。自動車で凡そ二時間弱で到着しますので日帰りで御参拝戴けます。筑後名物「筑後うどん・焼き鳥・ウナギ・とんこつラーメン」などを堪能できる店も点在しておりますので、皆様方のお越しを心より御待ち申し上げております。詳細は高良大社公式ホームページを御覧下さい。

若宮八幡社　縁の国学者による短歌

物集高世

わだつみの神の守江を漕ぐ船は
波の畏れもあらじとぞ思ふ

物集高見

御祭をよくせ氏人世の中の
ことみな神の御心ぞかし

宮司、禰宜、役員総代活動報告

二月　六日　速見支部理事会
二月十五日　総代会
三月十七日　船部若宮八幡社祭
三月十八日　大片平若宮八幡社祭
三月二十日　春季祖霊祭
三月二十五日　総代会
四月　一日　速見支部理事会
四月　三日　若八幡本社春季大祭
四月十一日　速見支部総会
四月二七日　会計監査
五月十四日　評議員会打合せ
五月二一日　評議員会
六月二三日　若八幡本社根付籠祭
七月　二日　速見支部研修旅行
七月　四日　神社庁大会（五日迄）
七月二一日　神明社祭
七月二四日　天満社祭
九月二三日　秋季祖霊祭
九月二九日　若八幡本社御願成就
十月十三日　貴布禰社祭
十月二一日　若八幡本社秋季大祭

編集後記

紀田禰宜のつぶやき

▲若宮八幡社社報『金鷹山』創刊第一号いかがでしたか。以前から当社の広報をもう少し実施しないと杵築市の皆様方に御理解戴けないとの御指摘もあり一念発起して上梓を見ることが出来ました。▲今回、初めての試みということでもあり、神社の由緒歴史、祭事の報告と予告などを中心に記事を作成しました。詳細については併行して立ち上げます公式ホームページも御覧下さると幸甚に存じます。▲これからは年に一回、秋を目途に毎年刊行していきますので、是非とも楽しみに御待ち頂ければと思います。記事にもありますように、来る平成二十七年度には大きな節目も控えており、氏子崇敬者の皆様方の物心共々の御協力を切に懇願申しあげる次第であります。▲間もなく若宮八幡社では、年に一度の例大祭そして正月とあっと言う間に平成二十五年も過ぎ去ろうとしておりますが、どうぞ健やかに毎日をお過ごし下さい。（宣）